

被爆69周年原水爆禁止世界大会・フクシマ大会

## 脱原発へ 再稼働阻止 全国各地から1300名が参加

2014年07月27日 被爆69周年原水爆禁止世界大会・フクシマ大会に参加

被爆69周年原水爆禁止世界大会は、7月27日、福島大会から始まりました。福島では、東京電力福島第1原発事故が起きた2011年から毎年開催され、特に原発事故の責任を問い、再稼働を阻止し、脱原発への政策転換を求めています。



福島県教育会館で開かれた大会には、東北各県を中心に全国各地から1300人が参加しました。全自交労連の仲間も福島地本、青森地連、愛媛地本、本部役員などが参加しました。主催者あいさつで川野浩一・大会実行委員長（原水禁議長）は、「安倍政権は、鹿児島の川内原発をはじめ各地の原発再稼働を狙っている。原発事故があれば全てを失ってしまう。福島原発事故の国の責任を明確にさせ、断固として脱原発、核兵器廃絶、平和憲法を守る運動を貫こう」と訴えました。また、福島県平和フォーラムの角田政志代表は「福島ではいまだ13万人が避難生活を余儀なくされている。震災時の直接死よりも、その後の関連死で亡くなった方が多くなった。原発災害を風化させてはならない」と強調しました。

大会では福島現地報告が行われ、福島県教職員組合の澤井和宏さんは、原発があった双葉郡8町村の小中学生は、事故前に約6400人いたのが、今は660人に減ったことや、子どもの甲状腺検査で通常より多くの悪性の疑いが出ているとして、「教育現場はまだまだ事故から立ち直ることが出来ていない」と指摘しました。



最後に「福島原発事故の深刻な状況、被災地の厳しい現実を直視し、フクシマを核時代の終わりにしよう」との大会アピールを採択しました。大会後、参加者は福島駅前などをデモ行進し、「原発はいらない！」「再稼働を許すな！」「政府は責任を取れ！」などとシュプレヒコールを行いました。